

## ■4月7日（火） <人の力を信じる経営>

田村 次朗（たむら じろう）

慶應義塾大学法学部教授

ハーバード大学国際交渉学プログラム・インターナショナル・アカデミック・アドバイザー

「三方よし」の対話力～問題解決のための戦略的交渉学入門～



ハーバード大学ロー・スクール修士課程、慶應義塾大学大学院法学研究科民事法学専攻博士課程修了。各省庁などの委員を務めるとともに、日米通商交渉、WTO（世界貿易機関）交渉、ハーバード大学国際交渉学プログラムのインターナショナル・アカデミック・アドバイザー、ダボス会議（世界経済フォーラム）の「交渉と紛争解決」委員会の委員を務める等、最前線における国際交渉の活躍経験もある。またその一方で、実務教育としての「交渉学」の開発に取り組んでいる。

## ■4月10日（金） <人の力を信じる経営>

唐池 恒二（からいけ こうじ）

九州旅客鉄道株式会社 代表取締役会長

「夢みる力が「氣」をつくる」



1953年生まれ。77年京都大学法学部卒業、日本国有鉄道入社。87年国鉄分割民営化に伴い、九州旅客鉄道（JR九州）に入社。1995年流通事業本部 外食事業部長として、最大8億円の赤字からの黒字化に成功。その後、外食事業を分社化したJR九州フードサービスの社長、九州旅客鉄道（株）取締役 営業部長、同社常務取締役 経営企画部長、同社代表取締役専務 総合企画本部長を歴任した後、2009年に代表取締役社長に就任。14年より現職。なつ星 in 九州の立役者。

## ■4月14日（火） <極人に聞く>

ヤマザキマリ

漫画家

「辺境のない生き方」



東京都出身。幼少は北海道千歳市で過ごし、14歳の時、母親に勧められてドイツとフランスを一人旅する。17歳でイタリアに渡り、フィレンツェの国立アカデミア美術学院入学。美術史・油絵を専攻。当時のイタリア暮らしを綴ったエッセーで漫画家としてデビュー後、比較文学を研究するイタリア人研究者との結婚を機に、シリア、ポルトガル、アメリカ各地での生活を経て現在はイタリア在住。2010年に古代ローマを舞台にした漫画「テルマエ・ロマエ」で第2回漫画大賞受賞。

## ■4月17日（金） <技術と戦略が拓く近未来>

山田 英夫（やまだ ひでお）

早稲田大学ビジネススクール 教授

「競争しない競争戦略 ～ 積極的な非競争のすすめ ～」



慶應義塾大学大学院経営管理研究科修了（MBA）後、（株）三菱総合研究所で、大企業の事業領域策定のコンサルティングに従事され、1989年早稲田大学に移籍。現在に至る。専門は競争戦略、ビジネスモデル。アステラス製薬、NECの社外監査役を歴任。慶應MCCでは、「経営戦略—ビジネスモデルから構想力を学ぶ」のビジネスプログラムにも登壇されており、山田先生の柔らかな口調での的確な指導は定評がある。

■5月12日(火) <極人に聞く>

五木 寛之 (いつき ひろゆき)

作家

「涙と笑い」

※講演 90 分のみ、質疑応答はありません。

1932 年、福岡県に生まれ。生後まもなく朝鮮半島に渡り、戦後、北朝鮮より引揚げ。早稲田大学文学部ロシア文学科中退。1966 年、『さらばモスクフ愚連隊』で小説現代新人賞、『蒼ざめた馬を見よ』で第 56 回直木賞受賞。『青春の門』で吉川英治文学賞をうける。1981 年より休筆、京都の龍谷大学において仏教史を学ぶが、1985 年より執筆を再開し、泉鏡花文学賞、吉川英治文学賞、その他の選考委員をつとめる。作詞家、翻訳家としても活躍。



■5月22日(金) <人の力を信じる経営>

松本 晃 (まつもと あきら)

カルビー株式会社 代表取締役会長兼 CEO

「カルビーはどうやって変わったのか」

1947 年京都府生まれ。京都大学大学院農学部修士課程修了後、伊藤忠商事(株)に入社。ジョンソン・エンド・ジョンソン メディカル(株)代表取締役社長、ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)代表取締役社長、最高顧問を歴任後、2009 年より現職。現在まで 5 期連続の増収増益を達成。老舗企業を再び成長軌道に乗せた「プロ経営者」と言われる。



■5月26日(火) <極人に聞く>

川村 元気 (かわむら げんき)

映画プロデューサー・小説家

「企画における”発見”と”発明”」

1979 年、横浜生まれ。上智大学文学部新聞学科卒業後、東宝入社。社内の企画募集に応募したことからプロデューサーとなる。26 歳で企画・プロデュースした映画『電車男』が興行収入 37 億円の大ヒットを記録、社会現象にもなる。その他代表作は『デトロイト・メタル・シティ』『告白』『悪人』『モテキ』『おおかみこどもの雨と雪』。米ハリウッド・リポーター誌の「Next Generation Asia 2010」に選出され、2011 年には優れた映画製作者に贈られる「藤本賞」を史上最年少で受賞する。近年、作家としての活躍も目覚ましく、デビュー作『世界から猫が消えたなら』が 2013 年本屋大賞、2015 年、『億男』が 2015 年本屋大賞にそれぞれノミネートされる。



■6月4日(木) <気鋭の論客に聞く>

水野 和夫 (みずの かずお)

日本大学国際関係学部 教授

「資本主義の終焉と歴史の危機」



1953年生まれ。早稲田大学大学院経済研究科修士課程修了(経済学修士)後、埼玉大学大学院経済科学研究科博士後期課程修了、同大学大学院博士号(経済学)取得。元三菱UFJモルガン・スタンレー証券参与チーフエコノミスト。内閣府大臣官房審議官(経済財政分析担当)、内閣官房内閣審議官(国家戦略室)を経て、現職。著書『資本主義の終焉と歴史の危機』は経済関連の新書で2014年最も売れたとされ、経済学者、エコノミストが投票する週刊ダイヤモンド「ベスト経済書」1位に輝いた。

■6月9日(火) <文化と歴史で世界を読み解く>

千住 博 (せんじゅ ひろし)

画家・京都造形芸術大学教授

「日本の美、世界の美」



1958年 東京都生まれ。東京藝術大学大学院博士課程修了。現在までニューヨークを中心に個展、グループ展、アートフェア出品等多数。2013年には回向院障壁画を完成させ、近年は花柳壽輔、坂東玉三郎主演「プレリユード」、オペラ「夕鶴」の舞台美術を担当するなど幅広く活躍。なお、実弟は作曲家の千住明氏、実妹はヴァイオリニストの千住真理子氏。

■6月17日(水) <人の力を信じる経営>

遠藤 功 (えんどう いさお)

早稲田大学ビジネススクール 教授、株式会社ローランド・ベルガー 会長

「現場力を鍛える～「非凡な現場」をつくるために～」



早稲田大学商学部卒業。米国ボストンカレッジ経営学修士(MBA)。三菱電機(株)、米系戦略コンサルティング会社を経て、2000年に欧州系最大の戦略コンサルティング・ファームであるローランド・ベルガー日本法人へ代表取締役社長として参画、2006年より同社会長、2007年にはドイツ本社経営監査委員会のメンバーにアジア出身者として初めて選出される。現場力三部作『現場力を鍛える』『見える化』『ねばっこい経営』は計30万部のベストセラー。

■6月22日(月) <社会の問題解決に挑む>

山本 雄士 (やまもと ゆうじ)

株式会社ミナケア 代表取締役

「投資型医療という社会イノベーション」



1974年札幌市生まれ。1999年東京大学医学部を卒業後、同付属病院、都立病院などで循環器内科、救急医療などに従事。医療の諸問題を解決するにはマネジメントが必須であると考え、2007年日本人医師として始めてHarvard Business Schoolを修了。2011年に(株)ミナケアを創業。経営理論を含めた医療・ヘルスケア業界全体のシステムマネジメント化を目指す。2014年に日本起業家賞を受賞。また、教育活動として山本雄士ゼミを主宰している。

■7月1日（水） <極人に聞く>

山下 洋輔（やました ようすけ）

ジャズ・ピアニスト、国立音楽大学招聘教授  
「魂の音楽 ジャズの魅力」



1969年、山下洋輔トリオを結成、フリー・フォームのエネルギッシュな演奏でジャズ界に大きな衝撃を与える。国内のみならず世界各国で演奏活動を展開し、佐渡裕、オーネット・コールマン、セシル・テイラーらと共演。他分野への進出、コラボレーションにも積極的であり、映画音楽も手がける。1999年芸術選奨文部大臣賞、03年紫綬褒章、12年旭日小綬章を受章。国立音楽大学招聘教授。演奏活動のかたわら、多数の著書を持つエッセイストとしても知られる。

■7月7日（火） <気鋭の論客に聞く>

伊藤 元重（いとう もとしげ）

東京大学大学院経済学研究科 教授  
「国際経済と日本の課題」



東京大学経済学部卒業。専門は国際経済学。米国ロチェスター大学 Ph.D 取得後、米国ヒューストン大学経済学部助教授として教鞭を執っていた際、ベストティーチャーに選ばれる。ビジネスの現場を歩き、生きた経済を理論的観点も踏まえて分析する「ウオーキング・エコノミスト」として知られ、日本経済新聞や様々なビジネス誌・経済誌への寄稿も多数。テレビ東京「ワールドビジネスサテライト」コメンテーターなどメディアでも活躍中。

■7月16日（木） <社会の問題解決に挑む>

村木 厚子（むらき あつこ）

厚生労働事務次官  
「女性がいきいきと働く社会」



高知県出身。1978年高知大学文理学部経済学科卒業。男女平等が当たり前ではなかった時代に、旧労働省に入省。当時は、仕事の1つとして、30人ほどの同僚に対する毎朝のお茶淹れがあったという。いまや中央省庁で史上2人目の女性事務次官に登りつめた村木氏。自らも2女の母として仕事と子育てを両立させながら働く女性をめぐる問題に取り組んできた。

■7月22日（水） <気鋭の論客に聞く>

富山 和彦（とやま かずひこ）

株式会社経営共創基盤 代表取締役 CEO  
「日本はローカル経済で甦る」



東京大学法学部在学中の1984年に旧司法試験に合格。1985年3月に同大学を卒業しボストンコンサルティンググループ入社。翌年、コーポレートディレクションの設立に携わり、設立後は経営戦略の立案やその実行支援を担当。1992年にスタンフォード大学経営学修士取得後、2001年にコーポレートディレクションの代表取締役社長に就任。その後、政府の打診により、2003年産業再生機構の設立にCOOとして参画。2007年コンサルティング・企業再生を取り扱う(株)経営共創基盤(IGPI)を設立し、現職。政府のJAL再生タスクフォースサブリーダーも務めた。